

(7 -) 非鉄金属 (電線・ケーブル)

19 / 18 20 / 19 伸び率10%以上 ● 伸び率0 ~ 10%
 : 天気図マーク; 伸び率0 ~ 10% 伸び率 10%以下

1 . 企業経営動向

(1) 需要

平成19年度の電線については、電力部門は、老朽設備の更新が進み微増となり、自動車部門については、ガソリン価格高騰等による燃費効率の良い日本車の輸出好調等により増加した。他方、通信部門では、通信各社による投資対象の光ファイバ化により低水準が続いており微減、建設・電販部門では、改正建築基準法施行に伴う認可遅延の影響を受けて減少となっている。電気機械部門では、需要先業界の海外生産シフト等が継続しており減少傾向にある。また、光ファイバは、国内需要については、F T T H (ファイバトゥザホーム) の増加ペースの鈍化により減少傾向にあるが、輸出が好調であり、全体としては増加した。

今後の見通しとしては、自動車部門では輸出好調が続き増加が見込まれるとともに、電力部門でも引き続き設備投資が堅調となる見込み。建設・電販部門は、建築着工が回復に向かうことが予想され、電線需要についても増加するものと見込まれる。電気機械部門についてはわずかに回復傾向、通信部門については引き続き減少傾向にあると見込まれる。

光ファイバは、鉄道関連での需要増やC A T V関連の光投資の継続や輸出好調の継続等が予測され、引き続き堅調に推移する見込み。

(2) 生産・設備稼働

19年度におけるメタル電線の出荷量は、電力、自動車部門では増加したものの、それ以外の部門では減少傾向にあり、全体として、- 1.7%と5年ぶりに減少に転じた。光ファイバについては、海外市場向け輸出の好調等が継続し、+ 22.1%と増加した。

部門	メタルケーブル(数量)		
	平成18年度	平成19年度	19/18
通信	18,957	18,525	-2.3
電力	74,248	74,440	0.3
電機	208,489	205,218	-1.6
自動車	88,574	94,167	6.3
建設・電販	386,250	372,590	-3.5
その他内需	62,549	61,564	-1.6
内需計	839,067	826,504	-1.5
輸出	31,776	29,647	-6.7
合計	870,843	856,151	-1.7

	光ファイバ(数量)		
	平成18年度 (千Kmc)	平成19年度 (千Kmc)	19/18 (%)
内需計	11,353	10,336	-8.7
輸出	14,720	21,483	45.9
合計	26,074	31,849	22.1

(3) 企業収益

電線主要企業の経営動向 (大手6社連結ベース) (単位 : 億円、%)

平成19年度決算は、情報通信関連製品、自動車関連製品等の需要が堅調であったことに加え、原材料費の価格高騰の影響もあり、売上高は前年比で増加したものの、価格高騰によるコストアップ等により、収益についてはほぼ前年同であった。

	17年度実績	18年度実績	19年度実績	20年度見込
売上高	40,310	49,833	52,664	53,610
営業利益	1,962	2,448	2,477	2,259
経常利益	2,104	2,512	2,596	2,299
純利益	1,164	1,372	1,193	1,238
経常利益率	5.2	5.0	4.9	4.2

2．設備投資動向（グラフ1参照）

電線・ケーブル製造業の設備投資動向（単位：百万円、％）

	18-19共通回答企業		19-20共通回答企業		19/18	20/19
	18年度	19年度	19年度	20年度		
電線	10,634	11,625	11,625	15,533	109.3	133.6
光ファイバ	490	439	439	938	89.6	213.7

(1)これまでの設備投資の推移

平成19年度は、電線については、海外の生産能力増強と国内では効率化のための投資等が行われ、光ファイバについては、需要増による製造設備の増強等が行われた。

(2)平成20年度の設備投資計画

平成20年度設備投資計画額は、電線では155億円と前年度比+34%（19-20共通回答企業ベース）、光ファイバについても9億円と+113.7%（同）の増加が見込まれる。

3．長期資金調達・運用動向

19年度の資金需要はほぼ同水準であった。内部調達を中心とした資金調達が行われたが、新たな借入も増加。20年度は、前年と比べ、資金需要は大幅増加する見込みであり、調達動向についても、新規借入金、内部調達ともに増加する見込み。

(グラフ1：設備投資の前年度比の推移)

